

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	今井 正司	所属	名古屋学芸大学
研究集会等名称	公益社団法人日本心理学会 注意障害研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会 員 7名 (うち認定心理士0名)</p> <p>非会員 9名 (うち認定心理士0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>本年度 (2012 年度) に発足した注意障害研究会は、心理・社会的問題を注意機能の観点から明らかにし、また、それらの注意機能に焦点を当てた介入方法の開発と評価を行うことを目的とした研究会である。</p> <p>本研究会は、精神科医療を専門とする医師、脳画像イメージングを専門とする医師、特別支援教育を専門とする小学校教諭、認知行動療法を専門とする大学教員および大学院生など、さまざまな分野から専門家が集結しているため、初年度となる今年度は、参加者の研究活動の場と領域を4つのユニットに分類し、各ユニットの研究発表を行う研究集会を開いた (2012年12月16日開催)。また、上記の研究集会の他にも、早稲田大学応用脳科学研究所との共催シンポジウム「応用脳科学の現在」を開催し (2013年2月28日開催)、本研究会における多数のメンバーが研究発表を行った。本シンポジウムへの参加者 (60名以上) の多くは大学教員および大学院生であったが、研究発表に関する学際的なコミュニケーションが活発に行われ、注意障害に関する情報発信と学術交流の場を提供することができた。</p> <p>来年度は、各研究ユニットで実施されている研究結果をまとめ、医療分野と教育分野におけるアウトリーチ活動を充実させることを計画している。医療分野においては、「うつ病における注意メカニズムと介入方法」をテーマに研究集会を開催し、現場の医師や心理士が注意制御機能に介入する際に求められる理論や手続きについて理解を深められる集会にしたい。教育分野においては、「発達障害を有する児童に対する注意制御機能への介入」をテーマに研究集会を開催し、特別支援教育を行っている教諭らが教室場面で実施できる「注意訓練」の手続きとその基礎理論について理解と興味を深められる集会にしたい。</p> <p>今後も、さまざまな分野の研究者と実践者を研究会のメンバーに加えながら、注意障害の問題に対して学際的にアプローチしたいと考えている。</p>		